

TracePro 2025.3 アップデートガイド

はじめに

本書は、TracePro バージョン 2025.3 における新機能、変更点、アップデート内容を説明するガイドです。本リリースでは、ユーザーの利便性を向上させるための機能追加と、ソフトウェアの性能拡張が図られています。また、ユーザーから報告された問題のいくつかも修正されています。

TracePro 2025.3 の新機能

TracePro 2025.3 における変更点は、新しいシーケンスエディタの改善、PlanOpSim ソフトウェアで作成されたメタサーフェスのモデリング機能の追加、ならびにお客様から報告された不具合や社内で見つかった問題の修正が含まれています。

新たに追加された機能は以下のとおりです：

- ・ シーケンスエディタ (Sequence Editor)
 - OSLO (.len, .osl) 、Zemax® (.zmx) 、Code V® (.seq) 形式のレンズ設計ファイルをインポート可能。
 - ミラー面のサポート機能の強化。
- ・ PlanOpSim サポート
 - PlanOpSim ソフトウェアを用いて作成されたメタサーフェスのモデリングが可能。

特定の問題に対する修正の詳細については、www.lambdares.com 内のthe TracePro Support sectionをご覧ください。

シーケンスエディタの詳細

シーケンスエディタでは、OSLO、Code V®、Zemax® からのレンズファイルのインポート機能が新たに追加されました。レンズをインポートするには、Sequence Editor 内で [File] > [Import Lens] を選択し、インポートしたいファイル (.len、.osl、.seq、.zmx) を参照してください。また、反射系 (Reflective Systems) の取り扱いも改善されています。

PlanOpSim メタサーフェスのモデリング方法

PlanOpSim ソフトウェア (www.planopsim.com) を使用して設計されたメタサーフェスをモデリングする機能が、新しい「Surface Property (表面特性)」のタイプとして追加されました。

以下は PlanOpSim メタサーフェスをモデル化する手順の概要です：

1. Surface Property Editorで新しい表面特性を作成。
2. プロパティの種類 (Type) を PlanOpSim に設定。
3. モデル内でこの特性を適用する対象のサーフェスを選択。
4. [Define] > [Apply Properties] の「Surface」ページを選択。
5. 作成したPlanOpSim プロパティを選択。
6. User Param フィールドに .psrt ファイルのパスを入力。
7. Property Orientation (特性の向き) を入力。

なお、.psrtファイルの例とチュートリアルは以下のURLで公開されています：

<https://lambdares.com/support-posts/using-planopsim-metasurfaces-in-tracepro>